

平成28年度 決算審査

八尾市の予算はどう使われたか

国からの予算がなくなった「土曜スクール」の存続は

土曜スクールは平成26年度から地域や小中学校が主体となった取り組みを実施してきた。今後、より地域に開かれた学校づくり、地域と協働した取り組みを続けていきたい。



認定こども園化により生み出される財政効果は

認定こども園計画は財源を生み出すための計画ではないが、ランニングコストが削減されるため、将来的に約5億円が生まれると考えている。



下水道の使用料値上げから1年事業の収支はどうなったか

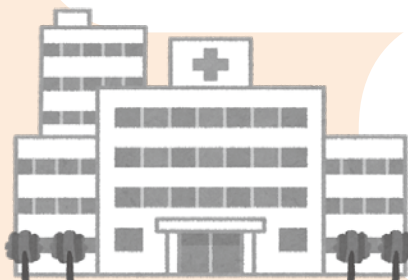
平成28年度決算では収益性が悪化しているが、使用料改定後の徴収が8カ月分だったためである。平成29年度決算では改善すると考えている。

今後の値上げの可能性は

10年間の収支見通しを立てた上で平成28年度の使用料改定を行っている。突発的な事象がなければ改定は必要ないものと考えている。

市立病院の決算状況は

単年度純利益で約1億6976万円を計上し、6年連続の黒字決算となった。一方で材料費が高騰しているため、PFI事業者、病院職員が一丸となって少しでも費用を抑える取り組みを進めていく。



利用はどのくらいか

入院患者数は年間延べ11万9633人で病床利用率は86.3%となり、外来患者数は20万570人となった。

おおさか東線 新大阪までの延伸整備事業は進んでいるのか

整備における本市の負担額は24億円である。現在予算執行率は低いが、平成31年春の開通を目指して、鋭意施工中との報告を受けている。



経常収支比率が悪化した理由は

歳出については人件費を初めとしたさまざまな経費を圧縮して約17億円削減したが、市税や交付税などの歳入が約29億円減少したため、昨年度の98.8%から101.0%へと悪化した。歳入を確保しつつ行財政改革を行い、市民サービスを低下させることなく対応していく。



その他の主な質疑

- 国民健康保険について
- 生活保護について
- 児童虐待対策について
- 障がい児の支援について
- 商業施策について
- 交通対策について
- 消防体制について
- 地域拠点のあり方について